宮崎大学
University of Miyazaki
～世界を視野に 地域から始めよう～

報道発表

令和５年３月２日

各報道機関　　御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（２月分）の配信について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元
宮崎大学企画総務部総務広報課
TEL：0985-58-7114　FAX：0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和５年２月分）

1. 「地域活性化人材育成事業～SPARC～」キックオフシンポジウムを開催
2. 門川中学校生徒と日本語を学ぶバングラデシュ ICT 人材がオンラインで交流
3. 徳成女子大学(韓国)の学生・教員が宮崎大学長を表敬訪問
4. 令和４年度宮崎県キャリア教育実践発表研修会を実施
5. みやざき未来研究所　第９回「宇宙と地域編」を実施
6. 第３回みやざき総合美術展で山﨑哲平さんが特選を受賞
7. 農学部植物生産環境科学科の卒論発表会を実施
8. 現役アナウンサーが大学生にコミュニケーションのコツを伝授
9. ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 ～KANEHIRO プログラム～
   「キックオフ！一般公開シンポジウム」を開催
10. 公開講座「魚をさばく」を実施
11. 「国際母語デー」イベントを宮崎市街地で開催
12. 公開講座「LIGA Agresiva で日本の社会を変える」を実施
13. DX を学ぶ　第 10 回『DX 時代の IT セキュリティ』を実施
14. 国際連携センターが「日本語教育セミナー」を実施
15. 宮崎大学基金への寄附目録贈呈式を実施
16. 令和４年度宮崎大学学生表彰を実施

1.　「地域活性化人材育成事業～SPARC～」キックオフシンポジウムを開催

令和５年２月２日（木）、「令和４年度地域活性化人材育成事業　～SPARC～　キックオフシンポジウム」（主催：山梨大学、共催：信州大学、山口大学、岐阜大学、熊本大学、宮崎大学）が東京都内をメイン会場として、対面参加とオンライン参加を可能とするハイブリッド形式で実施されました。

地域活性化人材育成事業は全国で６件が採択されていて、宮崎大学はその１件の事業責任大学を務めます。宮崎大学が主導しながら、南九州大学・宮崎国際大学・宮崎学園短期大学と連携して、新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する多様な未来共創人材の育成を目指します。

シンポジウムでは、まず、「地方創生大学を担う地域中核大学の人材育成　～金沢大学の教育改革から～」と題して、金沢大学前学長の山崎光悦氏から基調講演が行われました。その後、6 件の事業の事業概要が説明され、本学からは、新地辰朗理事・副学長（教育・学生担当）が事業概要を説明しました。また、パネルディスカッションでは、6 大学 SPARC 事業責任大学の代表者などを交えて、活発な議論がなされました。

2.　門川中学校生徒と日本語を学ぶバングラデシュ ICT 人材がオンラインで交流

令和５年２月８日（水）、宮崎大学履修証明プログラム「外国人 ICT 技術者人材育成プログラム：B-JET」の一環で、バングラデシュで日本語を学ぶ「Basic Couse」の研修生（11 期生）と宮崎県門川町立門川中学校の生徒６名がオンラインで交流する「B-JET CAFÉ with 門川中学校」を実施しました。

この交流会は、門川中学校の「総合的な学習の時間」を利用して実施されたもので、バングラデシュの日本語学習者と門川中学校の生徒たちが、お互いの国や町の有名な食べ物や観光地を紹介し合う交流となりました。

会では、バングラデシュ人研修生が「門川の乙島がきれい」、「だんじり祭りを観たい」と来日へのモチベーションが高まった一方、門川中学校生徒も地元の名産や魅力的な場所を伝えることができたようで、お互いの国や町の魅力を発見することができた有意義な交流となりました。

3.　徳成女子大学(韓国)の学生・教員が宮崎大学長を表敬訪問

令和5年2月8日(水)、宮崎大学の協定校である徳成女子大学（韓国）の盧姓鉉（ノ・ジュヒョン）教授と同大学学生の李穂旼（イ・スミン）さん、朴星垠（パク・ソンウン）さんが鮫島浩宮崎大学長を表敬訪問しました。

本学は、徳成女子大学と 2020 年 3 月に連携協定を締結し、学生交流や学術交流を活発に進めていく計画でしたが、新型コロナウィルス感染症の世界的蔓延により、十分な交流ができていませんでした。そこで、渡航の制限がかかる状況下において、徳成女子大学の日本語学科の学生に宮崎大学紹介動画の韓国語版制作に協力してもらい、2022 年 2 月から公開されています。なお、今回の宮崎大学紹介動画制作プロジェクトには中国・南京農業大学も参加しており、中国語版も同時に公開されました。

鮫島学長からは、動画制作への謝辞が述べられ、今後さらに学生交流・学術交流が活発になることへの期待を込めて労いの言葉が述べられ、盧教授からは、「天気にも恵まれ、韓国と比べて気温も暖かく、南国の雰囲気が気に入りました」との感想をいただきました。

2022 年には、徳成女子大学が実施する夏期短期プログラムに宮崎大学から 2 名の学生が参加しています。今回は、韓国語版動画制作に協力いただいた学生さん 2 名が宮崎大学を訪問した形で、キャンパスツアーや宮崎大学の学生との交流が予定されていて、更なる学生交流につながっていくことが期待されます。

4.　令和４年度宮崎県キャリア教育実践発表研修会を実施

令和５年２月９日（木）、宮崎大学 330 記念交流会館において宮崎県キャリア教育実践発表研修会が開催され、約 100 名の小中学生・教職員・地域の関係者の方々が参加しました。また、約 100 校の県内小中学校関係者もオンライン形式で参加しました。

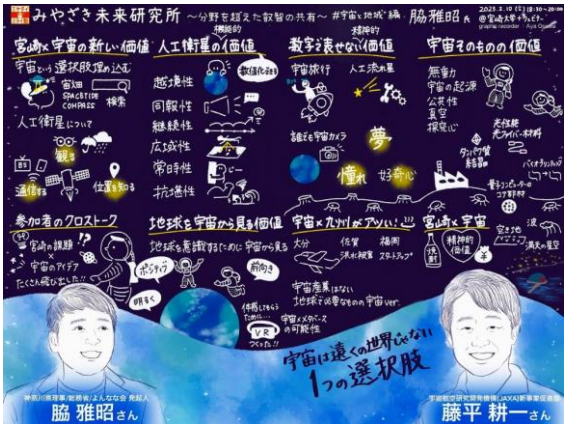
本研修会は、地域に求められる現代的な教育課題に向き合い、時代と地域の特性に応じた特色あるキャリア教育を充実させることを目的として、宮崎大学と宮崎県教育委員会が連携して取り組んで実施きたものです。

本年度は、日南市（鵜戸小中学校区）・西都市（穂北中学校区）・小林市（細野中学校区）・美郷町（美郷北義務教育学校区）の４つのキャリア教育推進事業モデル地区の先進的で特色ある実践例が児童・生徒・教員から発表され、各校が総合的な学習の時間などを活用した「地域の魅力を知り、地域愛を育む取り組み」や「地域の人と連携した就労体験や対話の実践」などが紹介されました。

また、これらの取り組みには宮崎大学教育学研究科椋木香子教授がプロジェクトリーダーとして全体を統括していたほか、教育学部・研究科の学生なども実際に学校現場に複数回出向いて参画していたことから、学生や教育委員会からも多数の質問や感想が挙がりました。

宮崎大学では、今後も県内自治体や教育委員会、高等教育機関や NPO 法人等と密接に連携しながら、地域のキャリア教育のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。

5.　みやざき未来研究所　第９回「宇宙と地域編」を実施

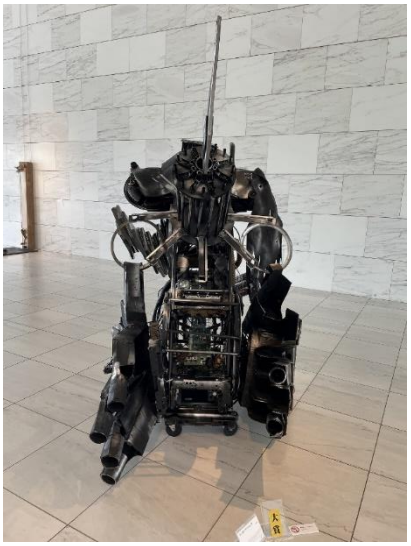


令和５年２月 10 日（金）に実施した第９回は「宇宙と地域編」と題して本講座のコーディネーターである脇氏のほかに、宇宙航空研究開発機構（JAXA）新事業促進部の藤平耕一氏をお迎えして参加者と「宇宙×宮崎」について意見交換をしました。

藤平氏は、宇宙はただ遠くて行きづらいが景色がよく、体が軽くなるだけの「地域」と考えてみること、また様々な視点で宇宙の価値についてお話しをされました。参加者との意見交換の時間では、宮崎の魅力との掛け合わせを考え、参加者からは宮崎の波を宇宙からみて発信するアイデアや、宮崎の観光や農業との組み合わせなど活発に意見が交わされました。

また、宮崎市職員でグラフィックレコーダーでもある Aya　Ogawa 氏が講義の要点をまとめたグラフィックレコードをその場で披露し、参加者の歓声が上がりました。

6.　第３回みやざき総合美術展で山﨑哲平さんが特選を受賞



宮崎大学教育学部３年の山﨑哲平さんが制作した作品が、第３回みやざき総合美術展（主催：みやざき総合美術展実行委員会）の彫刻部門で特選（大賞）に輝きました。

本美術展は、宮日総合美術展と県美術展の統合によって誕生した本県最大の公募展で、第１回展から創設された「自由表現」に、絵画、彫刻、書、写真、工芸、デザインを加えた計７部門で実施されています。

今回受賞した山崎さんの作品題名は「キングゴズメリオン剣（バスター）」。材料は全て大学で不要になったプロジェクタやプリンタなどを用いて、一年近い年月をかけて制作したそうです。山崎さんは「まさか自分が特選を受賞できるとは思っていなかった。題名からは一体どのような作品なのか想像がつかないと思うが、作品を見たらわかってもらえると思う」と喜びの声を寄せてくれました。

また、同じく彫刻部門において、教育学部３年の押川莉々花（おしかわ　りりか）さんの作品「浮遊感」も準特選（宮崎市教育長賞）を受賞したほか、橋口温葉（はしぐち　のんよ）さんの作品「〇〇〇」も入選に輝きました。

7. 農学部植物生産環境科学科の卒論発表会を実施

令和5年2月14日（火）、宮崎大学330記念交流会館において宮崎大学農学部植物生産環境科学科卒論発表会が開催され、約200名の学生・教職員が参加しました。

本年は卒業要件を満たした54名の4年生(外国人留学生3名を含む)がポスターセッション形式で、前半と後半の2グループに分かれて、それぞれの研究成果を後輩学生や植物生産環境科学科の教員に発表。教員からの鋭い質問にも、しっかりと受け答えしていました。

宮崎大学では、2月13日（月）に後学期の定期試験が終了したばかりですが、これから2月末にかけて各学部や研究科（修士課程・博士課程）での卒業論文・修士論文・博士論文の発表会が続きます。また、令和４年度宮崎大学卒業証書・学位記・修了証書授与式（卒業式）は3月24日（金）にシーガイアコンベンションセンター（サミットホール）にて開催する予定となっています。

8. 現役アナウンサーが大学生にコミュニケーションのコツを伝授

令和5年2月15日（水）・16日（木）、医療機器に興味のある学生を対象とした「医療機器開発や企業について知ろう！企業見学会」が開催されました。MRT宮崎放送のアナウンサーの加藤沙知さんを講師として迎え、社会人となる上で必要な取材力や質問力を向上させるためのコツを伝授するスペシャルセミナーを宮崎大学附属図書館にて実施し、大学生14名と教職員・関係者14名が参加しました。

これは、宮崎・大分両県に複数ある血液・血管に関する医療機器開発メーカーの魅力について知ってもらい、同時に社会人としての資質向上を目的に、東九州メディカルバレー構想の一環として、宮崎県・宮崎県医療機器産業研究会・宮崎大学が共催で実施したもので、スペシャルセミナーと企業見学を組み合わせたプログラムとなっています。

セミナーでは、加藤アナウンサーが「企業見学・インターンシップを前に。『コミュニケーションについて』」と題して、アナウンサーとなって今日を迎えるまでの自身の経験を踏まえながら、笑顔の大切さ、挨拶の基本的なポイント、取材・インタビューをする際のコツ

などを、学生との対話を交えながら明るく楽しく伝えていただきました。

また、宮崎県内でラジオパーソナリティなどを努めるなど、フリーアナウンサーとして幅広く活躍している横山由美さん（株式会社 Career Peko 代表取締役）からも、コミュニケーションをとる上で重要となる「うなづき」「あいづち」「視線」「クッション言葉」などについて説明があったほか、具体的に企業見学する際の質問内容について考える個人ワークが行われるなど、参加者はアナウンサー二人からの豪華なセミナーに大満足した様子でした。

参加者はセミナー終了後、宮崎日機装株式会社とアルバック機工株式会社を訪問し、工場を見学したほか、社員や経営者に対して直接インタビューすることなどを通じて地域の企業の魅力に触れながら、午前中のセミナーで学んだ知識を実践に活かしていました。

参加した学生からは「自分の住んでいる都市にこれほど凄い技術力を持った会社があったことを知り驚きました」と、感想が寄せられるなど、充実した企業見学プログラムとなりました。

9. ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 ～KANEHIRO プログラム～ 「キックオフ！一般公開シンポジウム」を開催

令和 5 年 2 月 18 日（土）、宮崎大学と東京慈恵会医科大学が連携して取り組む「地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら拡がる医師養成モデル事業～KANEHIRO プログラム：病気を診ずして病人を診よ～」の「キックオフ！一般公開シンポジウム」を宮崎市内（MRT micc ダイヤモンドホール）で実施し、オンライン形式を含め 217 名の方に参加いただきました。

新型コロナウイルス感染症を契機に、医療人に求められる資質・能力が大きく変化しました。それに伴い、高度医療の浸透や地域構造の変化も踏まえた新たな時代にも適応可能な医療人材の養成が必要とされています。文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点事業」として採択された本事業は、新たな多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わず適切な医療を実践できる医師を養成し、医師不足や医師偏在の解消に資する教育モデルの確立を目指すものです。

今回のキックオフシンポジウムには、鮫島浩宮崎大学長、横尾隆東京慈恵会医科大学副学長（オンライン参加）、重黒木清宮崎県福祉保健部長をはじめ、県内外から多くの関係者に出席していただきました。

10. 公開講座「魚をさばく」を実施

令和 5 年 2 月 18 日（土）、延岡市社会教育センターにおいて宮崎大学公開講座「魚をさばく」を開催し、約 20 名の方に参加いただきました。

本講座は、宮崎大学と延岡市が連携して実施するもので、農学部の内田勝久教授をはじめ、農学部附属フィールドの技術職員らの指導により、魚の基本体制や内臓などの内部構造を学びながら実際の魚をさばくことに挑戦してもらいました。参加者の皆さんは、慣れない手つきではあったものの、シマアジ、マダイ、カマスを３枚におろし、刺身や焼き物、あらはみそ汁にし、最後には参加者全員でおいしくいただきました。

11. 「国際母語デー」イベントを宮崎市街地で開催

令和 5 年 2 月 18 日（土）、宮崎大学へ留学して宮崎に就業したバングラデシュ出身の ICT 技術者の方々と、ユネスコが定めた「国際母語デー」イベントを宮崎大学まちなかキャンパス（若草通りアーケード内）で開催しました。

宮崎大学では、渡日前日本語教育、留学・インターンシップによるバングラデシュの優秀な ICT 技術者の地域企業への就業支援事業「外国人 ICT 技術者人材育成プログラム：B-JET」を、宮崎市、企業等との産官学が連携して推進していて、今回のイベントは、「宮崎市令和 4 年度バングラデシュ IT 人材活躍支援事業」の一環として、新しく宮崎の住民になったバングラデシュの方々の文化を知り、また日本の文化を知ってもらう文化交流として実施されました。

ユネスコの定める「国際母語デー」は、西パキスタンで主流のウルドゥー語を旧東パキスタン（現バングラデシュ）でも唯一の公用語とすることに対して、1952 年 2 月バングラデシュの首都にあるダッカ大学の学生が母語であるベンガル語を守るための抗議活動を行い射殺されたことが契機となっています。約半世紀後の 1999 年に、この母語を守る戦いとなった 2 月 21 日を国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が「国際母語デー」に定めており、バングラデシュ人にとってとても意義深い日となっています。

バングラデシュの抗議活動犠牲者の記念碑「ショヒド・ミナール」の前で、バングラデシュ国家の斉唱後、ベンガル語（バングラデシュの母語）の起源と歴史、母語保護運動につい

て、バングラデシュ人参加者より紹介されました。続いて、日本文化の紹介として吟詠（詩吟）が行われ、宮崎を代表する歌人 若山牧水の詩などが吟じられた後、参加者らは書道を通じて、漢字やベンガル語について学びあいました。

このイベントを通じて、宮崎へ来て日本語等を使って日々の仕事や生活を頑張っている彼らがベンガル語の大切さと自らのアイデンティティを再確認するとともに、日本人も多文化共生社会の中における各個人の文化背景や母語を尊重することを学びあいました。

このような相互の学びの場を創出していくことは、バングラデシュと宮崎の良好な関係構築に貢献するが期待されます。宮崎大学では、今後も関係機関と密接に連携しながら地域の国際化・多文化共生化を牽引し、明るい未来の創出に貢献してまいります。

12. 公開講座「LIGA Agresiva で日本の社会を変える」を実施

令和 5 年 2 月 19 日（日）、公開講座「LIGA Agresiva で日本の社会を変える　～ 私が高校野球においてリーグ戦を広げる理由 ～」を宮崎大学まちなかキャンパス（宮崎市若草通アーケード内）で実施し、宮崎県内外から高校野球指導者やプロスポーツ指導者、学生などを含め 13 人が受講しました。

本講座は、阪長友仁氏は、堺ビッグボーイズ（大阪府）で監督を務めながら、海外と日本の選手育成法の違いなどについて全国各地で講演活動などを行っている阪長友仁氏が講師を務め、2017 年度から実施しており、今年度が 6 回目で、3 年ぶりに対面式で開催。野球離れが深刻化するなか、小学部と中学部で 180 名もの部員が在籍する堺ビッグボーイズ独自の取り組みや全国各地に野球のリーグ戦を普及させるための取り組みなどが紹介されました。

また、参加者の皆さんが抱えるそれぞれの課題を共有し、その解決を目指すためのワークショップなども実施され、2 時間半にわたる熱のこもった時間となりました。

13. DX を学ぶ　第 10 回『DX 時代の IT セキュリティ』を実施

第 10 回目は令和 5 年 2 月 21 日（火）に「DX 時代の IT セキュリティ」と題して開催しました。DX 推進を考える時点でリスクについても考え、「セキュリティ対策計画」を立てる必要性についてお話しいただきました。これまでの一般的なセキュリティから新たに DX 時代に考えるべきチェック項目を、７つの視点から考えることのできる時間となりました。

今回の講座は地域デザイン棟会場と、オンライン形式を含め約 70 名の方に参加いただきました。今回は、最終回という事で、これまで 10 か月に及ぶ全 10 回の講座の振り返りもありました。

全 10 回の講座すべてを受講した受講生からは、「実例が多く紹介され、わかりやすい講座でした。全 10 回を通して DX に関する理解がとても深まり大変参考になりました。」といった感想が聞かれました。

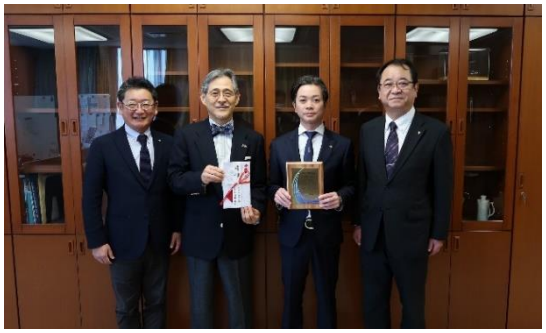
14. 国際連携センターが「日本語教育セミナー」を実施

令和 5 年 2 月 22 日（水）、宮崎大学が産学官連携で取り組む高度外国人 ICT 技術者の育成・就業支援（B-JET）や日本語教員養成など、各事業における日本語教育実績、ならびにそれらノウハウを活用した今後の展開についてセミナーを開催し、本学教職員をはじめ、地域自治体、国際交流協会、企業等の団体の関係者などが参加しました。

報告を受けて、片岡寛章 理事（研究・企画）より B-JET、B-MEET およびそれらを支える日本語教育人材の育成に関して所感が示され、最後に、長年、宮崎大学の日本語教育を牽引し、現在も宮崎大学発ベンチャーの宮崎国際教育サービス（株）代表として大学と地域の日本語教育を支えている、国際連携センター客員教授の長友和彦 名誉教授が各日本語教育事業における課題や所感を示す形で挨拶を述べて閉会しました。

宮崎大学では、これまで国際連携センターが主体的に進めてきた日本語教育を、全学的な取り組みとしていき、留学生の日本語学習や就職の促進、地域社会の国際化と多文化共生に向けた貢献を目指しています。

15. 宮崎大学基金への寄附目録贈呈式を実施



令和 5 年 2 月 28 日（火）、株式会社宮崎銀行が取り扱う「みやぎん CSR 型私募債（With）」のスキームを活用して、株式会社三興運輸様から宮崎大学基金に対し寄附をいただくことになり、寄附目録贈呈式が行われました。

贈呈式には、矢野智久氏（株式会社三興運輸代表取締役）、辻清氏（株式会社矢野興業常務取締役）、吉田秀朗氏（株式会社宮崎銀行本店営業部執行役員営業部長）が出席。矢野代表取締役から「宮崎大学には日頃からお世話になっている。まもなく農学部は１００周年、医学部は５０周年を迎えると聞いていて、何かに活用していただければ幸いです」とお言葉をいただきました。また、鮫島浩宮崎大学長からは、謝意が述べられた後、「企業と大学という垣根を越えて、宮崎のために頑張っていきたい」と抱負が述べられました。

16. 令和４年度宮崎大学学生表彰を実施

令和 5 年 2 月 28 日（火）、芸術・文化活動で全国規模の審査で優秀な成績を収めるなどした学生を表彰する表彰式を行いました。

本学では、学生が主体的に創造力と行動力を養い向上できるよう奨励すると共に、変わりゆく世界情勢や新たな科学技術の進展にも対応できる人材を育成し、国際社会の発展と人類の福祉の向上に寄与することを理念としています。